

長崎市



長崎市における精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築に向けた 取り組み

長崎市では、平成20年度から障害者自立支援協議会地域移行・地域定着部会を設置し、主に精神科医療機関に対して、地域移行・地域定着支援の普及啓発を図ってきた。

令和3年度には、精神障害者ピアサポーター養成講座を実施し、令和5年度までに約60名のピアサポーターを輩出する目標をたてている。

令和4年度には、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場を部会内に設置し、地域移行・地域定着支援等について市内の医療機関等と勉強会、情報交換会を行っている。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

1. 保健・医療・福祉関係者による協議の場

- 概要：障害者自立支援協議会専門部会内に、「保健・医療・福祉関係者による協議の場」を設置し、地域移行・地域定着支援の説明、地域移行の実践報告、ピアの方の話、グループワークを開催
- 開催頻度：年2回
- 構成団体：医療機関、相談支援事業所、当事者、行政（保健・福祉部署）

2. 精神障害者ピアサポーター養成講座の開催（地域生活支援促進事業）

- 目的：障害福祉サービス事業所等において、自らの当事者性を活かしながら他の精神障害者を支援するピアサポーターを養成し、その社会参加を促進するとともに、ピアサポーターの活用方法を理解した障害福祉サービス事業所等の従業者を養成することで、質の高いピアサポート活動の取組みを支援し、精神障害者が地域で安心して生活できる体制の構築を図ること。
- 対象者：障害福祉サービス事業所等に雇用等されている障害者（雇用見込み含む）又はその障害者が所属する障害福祉サービス事業所等の管理者等、ピアサポーターと協働し支援を行う者、精神障害者を支援する意欲がある者、講座の全日程に参加可能な者

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

3. 普及啓発事業（理解促進研修・啓発事業）

- 精神疾患に対する正しい知識の普及のため、市民や関係事業所を対象とした市民公開講座を開催。精神神経科診療所協会と共催
- 思春期・青年期の精神保健に関する知識の普及のため、市内小中高等学校と専門学校等、すべてに周知を行い、こころの健康づくり講演会を開催
- 統合失調症の家族教室、ひきこもり家族学習会を開催。医師や当事者、相談支援事業所等の講話を実施し、理解促進を図っている
- 出前講座の実施
- 各種啓発週間に併せて、ポスター掲示、啓発ブースの設置
- 広報誌や労政だより、勤労者サービスセンターの発行誌にて情報提供
- イベントや窓口、保健事業でパンフレットの配布およびポスター掲示

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

●平成20年度～

地域移行・地域定着支援部会を設置

●平成24年度～

障害者総合支援法の中で地域移行・地域定着支援が個別給付化されたことに伴い、市内の相談支援事業所と精神科医療機関とが連携し、地域移行支援を推進していくため、地域移行支援員人材登録事業(※1)を開始。

※1 地域移行支援を行う相談支援事業所が支援員を必要とする場合、精神保健福祉ボランティア養成講座を修了した者、ピア活動を行っている者、病院等で医師・看護師・精神保健福祉士等の経験を有する専門職等が、対象者に対しての相談支援、院外活動への同行支援、支援計画作成への協力等を行う事業。

●平成26年度～

障害者自立支援協議会地域移行・地域定着支援部会(平成28年より地域生活支援部会に名称変更)で、月1回、担当者による定期的な会議を開催する。

その他、事例検討、精神科医療機関内のスタッフに対しての院内学習会、医療機関の祭り等での出前講座、地域移行・地域定着に関する研修会の開催、地域移行・地域定着支援の周知リーフレット、しおりの作成、県主催の研修会への参加等を行っている。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

●令和3年度～

精神障害のある方の地域生活に関する相談、また長期入院患者の退院促進を進めていく上で、ピアサポーターが当事者や家族等への直接支援等を担い、当事者同士の支え合い、地域での助け合い等に大きな役割を果たすことから、精神障害者ピアサポーター養成講座を実施し、ピアサポーターの活躍の場の創出を進めている。

養成講座は当面令和5年度までの3年計画とし、令和3年度は20名、令和4年度は25名、令和5年度は30名を対象として実施予定。

●令和4年度

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場を、障害者自立支援協議会地域生活支援部会の中に設置。令和4年度は年2回開催した。

長崎県が作成した精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に係る評価指標をもとに、長崎市の現状について共有を図る。

また、精神科医療機関、相談支援事業所、当事者（ピアサポーター）、行政（保健・福祉部署）での意見交換会を行う。

さらに、長崎県主催の、精神障害者社会参加促進事業研修会に、長崎市の部会メンバーも出席し、長崎市の現状と課題について共有を図る。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和4年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R4年度当初)	実績値 (R4年度末)	具体的な成果・効果
①保健・医療・福祉関係者による協議の場	1回	2回	<p>障害者自立支援協議会の地域生活支援部会内で、精神科医療機関、相談支援事業所、当事者、行政で意見交換、協議を行い、長崎市の現状と課題を共有することができた。</p> <p>また、医療機関と地域関係者とが顔の見える関係づくりを図ることができた。</p>
②精神障害者ピアサポーター養成講座の開催	対象25名	修了者19名	<p>基礎講座、専門講座、フォローアップ講座の計9回を開催。</p> <p>当事者、事業所従事者合わせて19名が講座を修了。講座を修了した人たちで、月1回交流を図る機会を設け、今後もフォロー、スキルアップを図っていく。</p>

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 障害者自立支援協議会の地域生活支援部会内に、保健・医療・福祉関係者の協議の場をもうけ、意見交換会、勉強会を開催することで顔の見える関係づくりを図ることができている。
2. 令和3年度から精神障害者ピアサポーター養成講座を実施している。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
長期入院患者が多く、地域移行支援が進まない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の受け皿(資源)が不足していることから、地域での支援体制をどのように整備していけばいいか、医療機関と地域の関係機関で協議を図る。 ・地域の関係機関や住民への精神疾患に関する理解促進を図る。 ・精神科医療機関への普及啓発 	行政	協議の場での検討
		医療	協議の場への参加
		福祉	協議の場への参加、地域移行・定着支援の実施、
		その他関係機関・住民等	ピアサポーターとの連携
ピアサポーターの養成講座を令和3年度から3年間行っているが、講座修了者に対するフォローアップができていない。活用に至っていない。	<p>月1回、講座修了者が集まる交流会を開催今後、ピアの活躍の場を広げていくため、まずは精神科医療機関での活用を進めていく。</p>	行政	普及啓発、医療機関での活用の検討、活躍の場として考えられる機関へのニーズ調査
		医療	ピアサポーターが体験談を語る場の設置
		福祉	ピアの活躍の場の検討
		その他関係機関・住民等	ピアの活躍の場の検討
課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和5年度末)	見込んでいる成果・効果
①保健・医療・福祉関係者の協議の場	2回	2回	課題整理、解決に向けた取組の方向性の共有
②ピアサポーター講座修了者の交流の場		12回	ピアとしてのスキルアップを図る
③精神科医療機関内でのピアの活動の場	0	2回	長期入院患者の退院支援を促進していく

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

障害福祉課と地域保健課（市保健所）が協働し、精神科医療機関、相談支援事業所、当事者等が参画する協議会（協議の場）を開催しながら、包括ケアシステム構築を推進していく。

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
障害福祉課	地域移行・定着支援の支給決定 協議の場の設置（事務局）	地域保健課	精神保健相談、措置入院になった人の支援、家族支援等

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	保健所が中心となって、措置入院者に関する退院後支援会議を実施し、支援計画書を作成。定期的に情報共有を行っている。	保健所は個別ケースを通して、医療機関・相談事業所・関係機関との情報交換がスムーズになってきている。個別対応で終わっており、今後は地域課題について検討する必要がある。
医療	保健所と医療機関の連絡会議を実施。措置入院者の退院後支援についての検討やその他検討している。病院主催で依存症診療ネットワーク会議を実施。	保健所と医療関係者との情報交換はスムーズになっている。今後、福祉関係者との連携も働きかけていく必要がある。
福祉	協議の場において、一般相談支援事業所と精神科医療機関とが常に顔の見える関係づくりをしている。	今後、市内の相談支援事業所と精神科医療機関との顔の見える関係づくりを行っていくこと、さらには訪問看護事業所、生活保護担当部署、民生委員等にも働きかけを行っていく。
その他関係機関・住民等	ピアサポーターを3年にわたり養成しており、行政とピアの方との顔の見える関係をつくっている。	今後、ピアの方々の活躍の場を広げていくよう、精神科医療機関への働きかけ、雇用部門への働きかけを行っていく。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
地域生活支援部会	精神科医療機関、相談支援事業所、訪問看護事業所、障害福祉サービス事業所、行政(福祉・保健部門)	2回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着支援の実践報告 ・グループワーク 	・保健、医療、福祉で顔の見える関係を築くことを目標とする。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R5年9月 R5年12月	協議の場の開催	精神科医療機関、相談支援事業所、訪問看護事業所、障害福祉サービス事業所、行政が集まり、意見交換会を行う
R5年9月以降	精神科医療機関におけるピアの方の体験談の場の設置	県型保健所、長崎市、時津町、長与町と協働で、市内の精神科医療機関2か所における院内学習会で、ピアの方々の体験を話す場を設けるための協議を行い、今年度開催する予定
不定期	長崎県内の市町との合同連絡協議会の開催	長崎県内の4市町を中心として、にも包括構築に向けた取り組みについて、意見交換会をはかり、お互いに取り組み内容を知り、わが市町の体制づくりに生かしていく。 主催は4市で行い、この意見交換会の開催については県内全域の市町にも呼びかけ、年2回行う。